

# 被災地で巡回供養

## 本山・地元の46人で諷経

妙心寺派

兵庫県南部地震の月忌に当たる十七日、家屋倒壊や震災後の火事によって最も大きな被害があった神戸市長田区で臨済宗妙心寺派の僧侶による犠牲者供養が営まれた。同派兵庫教区住職らの呼びかけに本山が応え、妙心寺派として法要を営んだもので、約二時間半かけて震災の傷跡も生々しい被災現場を巡回し、供養の諷経を行なった。

この日の巡回供養は神足寺正観音寺住職(明石市)らが呼びかけていたもの。宗務本所でも被災地で追悼行事を計画していたが、地元で準備が進んでいることから、これに合流し、本山と兵庫教区挙げての法要となった。

当日は地元から川本昭道宗議會議員、大西道裕所長ら兵庫教区の僧侶三十一人(南禅寺派の一人を含む)が出席。さらに本山からは兵庫県南部地震被災者救済対策本部の副本部長でもある羽賀文圭総務



瓦礫の山に分け入り犠牲者供養の諷経を行なった

部長ら本山役員十一人が雲水姿で参加した。また遠く岐阜県からも青年僧ら四人が荷担し、総勢四十六人を数えた。被災地には犠牲者のために花を捧げる遺族も多かったが、供養の諷経を申し出ると涙を

流して感謝する姿もみられた。さらに二班に分かれ、一方は海側を、他方はJR線の北の被災地を東進。JR新長田駅を経て、地震の揺れと火災で街区全体が廃墟と化した菅

原通(JR兵庫駅の西)で再び合流し、瓦礫の山に分け入って犠牲者のために花が供えられている場所でも供養の諷経を行なった。そして最後に鉄の枠組みだけが僅かに残ったアーケ

ードの屋根の下で大悲咒、観音経などを諷経しつつ行道を厳修し、今回の大震災の犠牲となった数多くの人々の冥福を祈った。

法要後、神足観音寺住職が「我々がまず最初にできるボランティア活動はお経を説くこと。今後は各方面と連絡をとりあつて、被災者の精神的なケアにも取り組みたい」と挨拶。また羽賀総務部長は「被災者の皆さんにとって、これからがいよいよ大変な時期。地元教区と力を合わせ、この時期を乗り越えられるようできる限りのお手伝いをしたい」と語り、一派として継続的に被災者支援に取り組んでゆく考えを明らかにした。

その間メンバーは数日間、不眠不休でその他の援助物資である水六〇〇リットル、日本酒一升瓶百本等を用意する。一方、発電機、灯油、プロパンガス、四尺釜、キャンピングカーの手配など炊き出しの準備におわった。

また、しきび・色花などの供花を求める声も多く、現地では花不足が深刻になっていることもうかがわれた。

# 「あつあつ、を一万食

## 「生駒聖天さん」の大根焚き

寶山寺青年会が灘区で奉仕

生駒の聖天さんとして知られる真言律宗・大本山寶山寺に集う青年信者で結成する、寶山寺青年会(上田全宏会長、(株)上田技研社長)が十

兵庫県南部地震発生後、同会地元の人々が集まり会議を開き、自分達に何が出来るのかを何度も話し合った。その結果、毎年十二月一日の恒例行事となっている寶山寺境内での「厄除け開運の大根焚き」を被災地でやることになった。当初は大根一万本分の予定だったが、炊き出しの話を聞いた和歌山県の同会メンバーで御坊のJA職員や熊野本宮町消防団員、あずまや旅館主人らの有志が町内、知り合いなどにも積極的に援助物資の募集を呼び掛け、ボランティアの輪は広が

った。前日までに同会会員の(株)西製作所(下西蔵社長)を通じて、大根のほか、供花六百束、饅頭千五百個、米四斗、菓子段ボール十箱が集められた。

「体が温まる」と喜ばれたふろふき大根の炊き出し

当日、作業着に長靴姿の会員達総勢三十人で結団式を行ない、午前三時に寶山寺を出発。同五時に現地に入りテント、釜などの設置をし、同九時半には集まった神戸の人達に炊きたての温かい大根が振る舞われた。

同会では事前に各ラジオ局を通じて炊き出しを広報していたため、同会の予想を超え、人出となり、西日も供花、饅頭、菓子は午前中で、ふろふき大根も午後二時には予定分を配り終えることになった。

力により阪神・淡路大震災被災文化財等救済委員会(杉下隆一郎会長、東京都台東区上野公園一三〇二七)が設置された。

# 兵庫県南部地震

## 温かい食事炊き出し

### 梅松塾生らが東灘区で

大本

兵庫県南部地震発生翌日から被災地へ災害救援奉仕隊を派遣している大本教団(出口聖子教主)では八日から十一日まで、神戸市東灘区の避難所で温かい豚汁とご飯の炊き出し奉仕を行なった。

教団では震災発生当初、同奉仕隊が救援物資を直接、避難所へ届けるなどしていたが、二月に入ってから救援対策の組織を再編成して、より継続的な救援活動を行なっていく体制を整えた。

今回の奉仕隊派遣にあたっては、パンやおにぎりの食事が続く避難生活で温かい食事をとってもらおうと、東灘区役所とも連絡をとり具体的な派遣計画を決定。

八日に第一次の奉仕隊が本山第一小学校で昼食時に千食、九日には第二次同隊が本山南中学校で千二百食の炊き出しを行なった。

この日は天候にも恵まれ、校庭ではドッジボールを楽しむ子どもたちの姿も。奉仕隊は大釜三口で豚汁、五升炊き出しの炊飯器十二台でご飯を調理し、午前十一時半の昼食時間

前には一般のボランティアたちが、同中学校向かいの田中保育園、田中児童館に避難している人たちや近隣住民にも食事の提供をハンドスピーカーで呼びかけた。

昼食時間になると鍋や容器を手にした人々がテント前に列をなし、梅松塾生は「がんばってください」と声をかけながら豚汁、ご飯を手渡していた。正午すぎには同中学校の生徒らも姿を見せ、友人らと校庭でおいしそうに箸をすすめていた。

なお第三および四次の奉仕隊は十日(昼食)に御影高校で千二百食、十一日(夕食)に福地小学校で千八百食の食事をそれぞれ提供した。

# 文化財にも救援の手が

## 廃棄・散逸の防止へ

文化庁管理下に委員会設置

この度、兵庫県南部地震で被災した文化財を救援しようとして、文化庁施設等機関及び文化財・美術関係団体の連携協

同委員会の活動内容は被災した古美術品を専門家の手で運び出し、安全な博物館などに一時保管。今後予想される貴重な文化財の廃棄・散逸を防止するといったもの。

表装具、仏像などの古美術品は各寺社、美術館、博物館、一般企業、個人など様々な立場で所有されているが、このボランティア活動は全ての所有者を対象とし、あくまでも文化財保護のために行なわれるものである。

すでに二月初めに調査隊が被災地に入り古文化財の被害状況の調査を始めているが、四九二二。

東灘区の避難所で温かい豚汁とご飯の炊き出しを奉仕



兵庫県南部地震発生翌日から被災地へ災害救援奉仕隊を派遣している大本教団(出口聖子教主)では八日から十一日まで、神戸市東灘区の避難所で温かい豚汁とご飯の炊き出し奉仕を行なった。

教団では震災発生当初、同奉仕隊が救援物資を直接、避難所へ届けるなどしていたが、二月に入ってから救援対策の組織を再編成して、より継続的な救援活動を行なっていく体制を整えた。

今回の奉仕隊派遣にあたっては、パンやおにぎりの食事が続く避難生活で温かい食事をとってもらおうと、東灘区役所とも連絡をとり具体的な派遣計画を決定。

八日に第一次の奉仕隊が本山第一小学校で昼食時に千食、九日には第二次同隊が本山南中学校で千二百食の炊き出しを行なった。

この日は天候にも恵まれ、校庭ではドッジボールを楽しむ子どもたちの姿も。奉仕隊は大釜三口で豚汁、五升炊き出しの炊飯器十二台でご飯を調理し、午前十一時半の昼食時間

前には一般のボランティアたちが、同中学校向かいの田中保育園、田中児童館に避難している人たちや近隣住民にも食事の提供をハンドスピーカーで呼びかけた。

昼食時間になると鍋や容器を手にした人々がテント前に列をなし、梅松塾生は「がんばってください」と声をかけながら豚汁、ご飯を手渡していた。正午すぎには同中学校の生徒らも姿を見せ、友人らと校庭でおいしそうに箸をすすめていた。

なお第三および四次の奉仕隊は十日(昼食)に御影高校で千二百食、十一日(夕食)に福地小学校で千八百食の食事をそれぞれ提供した。